焦点

緑ケ丘の五島順子さんが三池の婦人代表として伊東の第七回炭労大会に出席した。五島さんのほか全国各地区から十五名の代表が参加した。主婦として初めてのまぢかではありますが、感激も一入深かつたと思われる。以下五島さんが見たまゝ感じたまゝを左に掲げる（手記原文のまゝ）

世紀の大闘争といわれた六十三日のスト終了後始めての大会に執行部のお供をさして頂き、先づ最初に感じました事は各代議員の方の会議に対する非常な熱心さで御座いました。

山元の皆様も一応はお考えになつた事と存じますが私自身も伊東などの温泉地でどの様な会議の在り方であろうかと実は危くを感じて居りました。それが開会ほう頭より真剣な委員長のあいさつ、事務局長の熱誠溢るゝ答弁をお聞きしている中に自分の考えの誤りである事をはつきり知りました。

組織の力を身に泌みて痛感

炭労大会に出席した五島さん

交字通り伊豆の山々にかこまれた山地の中に温泉地らしい情緒をたゝえた伊東の町、椿の花の香りゆたかな朝陽の中を各宿に分散した代議員の方々は審議書の入つたカバンを提げて三々五々会議場なる東小学校へ向います。午前九時から午後五時まで中食時間一時間の休みをとる以外固い椅子の上に坐りつゞけて賃金闘争の自己批判、新年度の行動方針にあらゆる面から論議検討して活発な発言をされる時には執行部と激しい論争が行われるが、一転して問題が解決すれば共に爆笑して和気アイ〳〵の中に八日間の議事を進められました事は、代議事と思います。北から南から馳せ集つた十五名の婦人代表は一堂に集つて十日間の行動を共に致しました。何気ない雑談の中にも労働者の妻として母として弱く起ち上ろうとする意欲がうかがわれました。九州と東北では風俗言葉の上で随分違つた所もありますが、結局炭鉱の主婦としての正しい歩き方は共通のものでありまして初対面から非常に気持がぴつたり致しましたいよ〳〵三月七日の別れの時は常磐、北海道の代表をタクシーの所まで見送りましたが涙のために別れの言葉がいえませんでした。

十五名の代表の中十四名の方達は炭婦協の代表として参加され、私唯一人が炭婦協外の婦人として出席させて頂いたので御座います。

炭婦協と申しますのは既に御存じの方も多いと思いますが、炭鉱主婦協議会と申しまして全国炭鉱労働者の主婦が手をとり合つて平和文化国家建設、知識の向上、家庭生活の合理化等、労働組合と緊密な連絡の下に進んでゆく集りで御座います。その炭婦協にまだ三池は加入して居ません。伊東で婦人代表と初対面の時貴先に口を揃えて言われました事は

「三池の五島さん、貴方の所の様な大山が未だ加入しないのはどういうわけですか？私達は今度貴方の和山の組合長阿具根さんを炭婦協の東京大会で公認候補として決定しました。地元から全国区の参議員に出る人もあるけど組織を以て推した人を絶対支持して一人でも多く私達の味方を国会に送り出さずにはおかれません。われ〳〵の票は全部阿具根さんへと申合せています」と的確な言葉を聞きました。私は全く頭の下る思いが致しました。

炭婦協加入の問題ではなほ国炭鉱主婦がしつかり手を握り合つて如何なる弾圧にも屈せず組織の強化をはかり、炭労と一体となり、次々と襲ひ来るであろう苦難の前に敢然として起ち上り前進する意味に於きましても、一日もゆるがせに出来ない事と思います

寫眞は五島頼子さん

選挙戦の火ぶた切る
負けたら反動の嵐
阿具根組合長立候補の弁

廿三日愈々選挙戦の火蓋が切られた。廿四日現在の立候補届出では衆院九一〇名参院三三四名、早くも異常な激戦が豫想される。平和と自由を守り抜く為、また黨利黨略にのみ狂奔して國会の正常な運営を忘れ去つたかのような政黨屋共の手から眞の國民の為の政治をとりもどす為我々の組織炭労始め総評傘下各單産は夫々働く者の代表を推し立て、保守反動陣営と對決すべく起ち上つた。この時に當り炭労並に左派社会黨公認として参議院全國區に立候補した我等の阿具根組合長は選挙戦に臨む信念と決意を次のように語つた。

この度皆様の御支援により炭労なら日本の再軍備の為には七千億円を要するといわれています。これは正に国民を餓死せしめる数字です。仮りに自由党のいうように事情の許す範囲内二千億に止め行、そのつかれがまた癒えぬうちに政府はわれ〳〵労働者に対し方的な弾圧的態度をもつて臨み、いうところの五大法案、警察法改正、義務教育費国庫負担法、恩給法、ス規正法など、勤労者にとつて極めて不満な悪法を納得の行く説明もせず数の暴力で衆議院を押切り、参議院に持ち込んだのであります。国民の信を失くした吉田内閣は自由党内部の分裂により遂に崩壊、十六日議会解散で法案の審議はお流れとなりましたが然し私達はこれで安心してはならないのです。私達の敵吉田は倒れましたが、代議士に当選しても議会に出席するのでもなく、寧ろ総理大臣の夢だけを追う追放解除の鳩山を中心に新党結成工作が着々と進められ、その総参謀格である三木武吉は再軍備論者の急先鋒である芦田と結び保守陣営の離散整備に狂奔、又かつて吉田の取巻きであつた広川弘禅も鳩山に忠誠を誓うなど奇々怪々な動きを示しております。若し今度の選挙で私達が負けたら平和憲法改正、弾圧法の再提案など一層の重圧が勤労階層の上にのしかゝつて来るでしよ

組合員を食いものにふえた高利貸し
労働金庫からの融資で救済

ドッとくり出す人の波
だが人出の割には金は落ちない？

例年春の御彼岸の頃ともなれば年田の街は「二十日市」で賑いを呈する。名物植木市より子供達は昔なつかしい絹織手や風船、おもちゃ屋の前にしたい寄りがちである。御天気は好し、金受け直後のことでもあり、廿一、廿二の連休にはとても家の中にジツとしていては居られず、銀座通りから大正町筋を人の波で埋めつくした。だが人出の割には金は落ちず、無料の演芸場の前だけ黒山の人だかり。闘天闘人たちは徒らに素通りする悲しい人の流れを見送つてかたち顔であつた。